

Y17a 仙台市天文台 -リニューアルからの5年間-

溝口小扶里, 土佐誠 (仙台市天文台)

仙台市天文台は1955年に開台し、2008年7月1日に仙台市郊外にある錦ヶ丘に移転、民間のノウハウを活用するPFI方式の導入によりリニューアルオープンした。

現在の仙台市天文台は、「観測」「展示」「プラネタリウム」の3つのゾーンから成る天文総合博物館となっている。施設アイデンティティーである「宇宙を身近に」を合言葉に、リニューアルオープンからの5年間、様々な取り組みを行ってきた。

旧天文台の時代から続く幼・小・中学校向けの学校教育支援事業「天文台学習」や、望遠鏡同架車両「ベガ号」で市内に出張する「移動天文台」などはもちろん、東北大学や宮城教育大学との連携、地元仙台のアーティストや企業など、多彩なコラボレーションを行っている。プラネタリウムでは市民の方に出演していただく「スペシャルプラネタリウム」やコンサートなどを開催。また、「三ツ星天文台」を中期目標に、そして「たべる」「うつす」など、年間を通じた活動テーマを掲げ、それに基づいて企画展やワークショップなどを企画・開催している。リニューアル2年目からは、天文台の開台を記念した「天文台まつり」を開催。毎年、市民参加型のイベントやワークショップを工夫しながら企画し、昨年は企業ブースの出展も行った。

最近では広報活動の一環として、ブログやtwitter、facebookなども利用し、市内だけでなく全国に向けて情報を発信しており、活動の幅を広げている最中である。

本講演では、この5年間で宇宙を身近にするために行ってきた活動を紹介する。